

# 教職支援センター ニュースレター

## 巻頭言

### 【長期寄宿体験が子どもの生きる力を育む】



2年ほど前に、諏訪市の「蓼科保養学園」に出会い、そこで生活する子どもたちの成長について調査する機会を得ました。蓼科保養学園は、茅野市の蓼科高原に位置し、学校を併設した児童の寄宿施設です。大正12年(1923年)に諏訪市の医師が虚弱児童の心身の鍛錬と体位の向上のために設立し、現在は諏訪市に寄贈され、諏訪市独自の児童福祉施設として運営されています。

諏訪市に在住する一般の小学校5年生40名(男女各20名)が対象で、年間4期(1期70日)に分けて児童を受け入れています。諏訪市内7つの小学校から希望者を募り、毎年約160名の小学校5年生が、70日間親元を離れ、学園で共同生活をおくれます。長い歴史があるので、親子3代が参加している例もあると聞いています。諏訪市職員の園長に加え、生活指導員2名と保育士4名が交代で生活指導を行い、併設の学校では小学校教諭2名が学習指導を行っています。

子どもの生きる力を測定する調査を実施した結果、学園参加者は統計的に有意な向上が見られたものの、諏訪市内の小学校に通う5年生を統制群とした調査では有意な向上が見られず、学園の子どもたちは、70日間の長期寄宿体験を経て生きる力が向上したことが明らかになりました。指導員へのインタビュー調査から児童の様子を分析したところ、学園生活によって「意欲を持って取り組める」「友達と深く関われるようになる」「体力が向上する」といった望ましい変容が見られるようになったことがわかりました。

わが国では、「生きる力」の育成を教育の最重要目標に掲げています。「生きる力」とは、変化の激しいこれからの社会を生きる子どもたちに身に付けさせたい「確かな学力」「豊かな人間性」「健康と体力」の3つの要素からなる力です。この「生きる力」は、学校における学習に加え、教室の外での多様な体験活動によって効果的に育成されます。

蓼科保養学園には、現代の子どもたちの成長に必要な栄養素がバランスよく含まれています。睡眠・食事・清掃・挨拶などの規則正しい生活、児童が主体的に取り組めるように配慮された竹馬検定や毎朝のランニング、ホームと呼ばれている小グループを中心とした仲間との親密な交流、キャンプやスキーといった自然体験活動など、長年培ってきた日課・活動プログラムが、子どもたちの成長に大きな影響を及ぼしていると考えられます。1923年から続く歴史ある取り組みである一方、蓼科保養学園は、まさに現代的な教育課題に対応した有意義な取り組みであると評価しています。

平野 吉直  
(教職支援センター長)



# シリーズ 活躍する卒業生

教職支援センターの前身の教職教育部が発足して10年が経ち、多くの卒業生が教育現場で活躍しています。毎回テーマを決めて、卒業生の活躍を紹介します。

## ～ vol.4 人文学部編 ～



長野県飯田風越高等学校 教諭

丸山 沙織 先生

大学院人文科学研究科 平成24年度修了



私は、信州大学人文学部から信州大学大学院人文科学研究科に進学し、日本語学について理解を深めるとともに、専修免許を取得しました。

そして、同科を修了した翌年から長野県飯田風越高等学校で国語科の教諭として勤務しています。平成27年からは3年間、同校でクラス担任を務め、今年3月に、クラスの生徒40名は無事卒業を迎えました。晴れやかな顔で卒業した彼らを見て、ほっと肩の荷が下りました。

教育実習の時にはなかなかわからないものでしたが、教員は仕事量が多く、ただ授業準備と授業を繰り返せば良いだけの職業ではありません。クラス、部活動、係、委員会、進路指導と、その職務は多岐に渡ります。クラス担任であったこの3年間はやるべきことが多く、特に3年担任時は進路に関する業務が増え、仕事が追いつかずにてんでこ舞いでした。

上記のように職務が多い教員ですが、それでも、やはり核となるのは授業であると感じます。生徒が学校にいる間、一番割かれているのは授業時間であり、また、総合的な力を身に着ける場であると言えます。初任者研修の場でも、「皆さんは『部活動』や『生徒指導』で採用されたのではなく、各『教科』の枠で採用されたのだから、そのことを忘れてはいけません」と言われ、私は今も肝に銘じています。高校教育の場では授業改革が叫ばれ、本校でもRESASを活用した探究授業や、電子黒板等ICTを利用した授業が行われています。新テスト(大学入学共通テスト)を間近に控えた今、生徒が身に着ける

べき力とはどのようなものか、教育現場にいる我々が改めて考えなければなりません。そのために、ただアクティブラーニングやICTを使うといった手段にこだわるのではなく、何を養わなければならないのか、何を伸ばしたいのかといった目的をよく考え、これからの授業を作っていきたいと思えます。

教員とは大変な職業ですが、成長していく姿を見るのは楽しく、嬉しいものです。授業やクラブ、生徒会、クラスを通して生徒が成長する一つの糧になるため、私自身も研鑽を重ねていきたいと思えます。





飯田市立竜峡中学校 教諭

## 丸山 亜美 先生

人文学部人文学科 平成26年度卒業



早いもので大学を卒業してから4度目の春を迎えました。信州大学人文学部を卒業した後、大町市立第一中学校に赴任し、3年間、副担任として子どもたちの成長をそばで見守りながら、中学校生活の流れを学ばせていただきました。

初任1年目、昔からの夢であった「英語の先生」という職業に就けたことをうれしく思いましたが、現実には上手いかず、生徒の「わからなさ」や興味を捉えることができずにつまらない授業をしてしまうなど、力不足に悩むこともありました。

しかし、色々な先生方の授業を見させていただいたり、全校研に挑戦したりするなかで、様々な指導法や生徒を惹きつける工夫などを学ばせていただき、徐々に手応えのある授業も増えていきました。今年の3月に子どもたちからもらった寄せ書きメッセージには、「優しく、分かりやすく教えてくれてありがとうございました。」「英語は苦手だけど、楽しかった。」というメッセージが多く見られ、感慨深いものがありました。

3年間で振り返ってみると沢山のことがありましたが、委員会では福祉実行委員会の顧問を務めました。主な活動は全校でアルミ缶を集め、その収益金を福祉施設へ寄付するというものでした。子どもたちは互いに声を掛け合い、夏休み中にも集まって数を数えるなど、意欲的に活動していました。部活動は男子バスケ部の副顧問でした。未経験のスポーツということで戸惑いもありましたが、怪我のないように見守ることが勤めだと考え、できる範囲で関わりました。

また、英語科としては、英語弁論大会で生徒を全国大会へ出場させることができました。その生徒の実力が素晴らしかったので私は微々たる手助けをただけですが、彼女自身の自信につながったようで、大変嬉しかったです。

この春、飯田市立竜峡中学校に異動となり、2年生の担任となりました。今まで自信がなく、避け続けてきた「担任」という立場。

「教師としての本当の醍醐味は担任を経験すると分かるよ。」と言われたことがあります。不安も大いにありますが、まだ知らない自分と、子どもたちの成長を楽しみに、日々挑戦していきたいと思えます。



## 教職支援センター1～3月の動き

- 教員免許更新支援センター会議(1/26)、○教員免許更新支援センター運営委員会(2/2)、○教職セミナー(2/6)、○CST附属松本中学校参観実習(2/19-2/21)、○長野県総合教育センターとの連絡協議会(2/19)、○教職教育委員会学芸員養成課程実施部会(2/27)、○初級CST認定審査(3/2)、○CST養成プログラム実施委員会(3/13)、○教職教育委員会(3/15)

# ようこそ教職相談室へ

教職相談室を紹介します。場所は、松本キャンパスの教職支援センターのある建物の南側2階にあります。下の写真のように「教職相談室」と書いた室名札がかかっていますので、おいでになれば分かると思います。

教職相談室は、その名が示すように、教職に関わる疑問や迷い、あるいは悩みなどについて相談をお聞きし、質問に答えたり、アドバイスをしたりするところです。とは申しましても、教職に就くかどうかまだ決めてない人もどうぞおいでください。昨年度も、教員になりたいと願っている人ばかりでなく、教職を多くの選択肢の一つとして考えていない人、自分が教員の適性があるのかを知りたい人など、いろいろな方が来られました。それで結構です。職業選択は、ご自身の人生を充実したものにできるかどうかを左右するほど大切なことだと思います。私たちは、学生の皆さんが自身の将来の職業を選択する際に必要な情報を提供してお手伝いできれば、そう願っています。ですから、いつでもけっこうです。アポも必要ありません。ただし、私たちが留守にすることもありますので、留守だと困るという方は、事前に電話等で連絡しておいていただくとありがたいです。メールの相談も受け付けておりますので、ご活用ください。(kyousho@shinshu-u.ac.jp)

また、教職相談室では、教職をとっている皆さんを対象にして、教職に関する法規や日本の教育の現状や課題、これからの方向などについての学習会を開催しています。この学習会は、皆さんに資質能力のある教員になっていただくためのものですが、教員採用試験に向けての準備にもなっています。

いかがでしょうか。私どもの教職相談室がどんなところか、お分かりいただけたでしょうか。平成30年度も学生の皆さんの要望を受け止めて真摯に相談・助言に努め、全力で応援させていただきます。どうぞ気楽においでください。お待ちしております。

玉川隆雄(特任教員)



## 専任教員紹介



## 編集後記

教職支援センターが設立されてから丸2年が経ち、ニューズレターも3年目に入ります。専任では神谷先生がご異動に、特任では千村先生と井出先生がご退職になりました。メンバーの入れ替わりはいつでも寂しいものですが、4月より、特任教員として小松寅雄先生、桜井達雄先生をお迎えし、新たな体制が始まりました。これからも学生の教員免許取得、教員採用試験のサポートをさらに充実させて参ります。(広報担当 河野桃子)

## 特任教員紹介



小松寅雄



桜井達雄



下澤秀夫



玉川隆雄



西牧 守

